

キセキレイ



金山にて

(撮影：桐原佳介)

今月は、レモン色のお腹をしたキセキレイをご紹介します。昨年の6月に金山で出会ったキセキレイは、「こぎげんにさえずっていました。「チチン、チチン」と高い鳴き声。その音色は、テノール歌手のテノポの速い歌のようです。繁殖期の初夏から盛夏に見られるキセキレイのうち、あごの下に黒い三角模様があるほうがオスです。

南部町にはセキレイの仲間が3種類います。顔全体が白っぽいハクセキレイ、顔が黒っぽいゼグロセキレイ、そして黄色が鮮やかなキセキレイです。この3種は水辺に多いのですが、上手に住み分けをしています。

ハクセキレイは、住宅地など人工的な環境でもよく見られます。ゼグロセキレイは、田畑がある里山的な緑が多い場所を好みます。キセキレイは、どちらかと言えば山里が好き。言うなれば、川の下流にはハクセキレイ、中流にはゼグロセキレイ、上流にはキセキレイという傾向があるのです。ところが、南部町には一つの地区に「白」「黒」「黄色」の3色のセキレイが見られ

ることがあります。それだけ多様な環境に恵まれているのでしょうか。

これらの環境の下で、セキレイたちはちよつとした物陰を子育ての場所に利用します。例えば、しばらく放置していた車の車体でセキレイが子育てを始めてしまい、子育てが終わるまで車を動かさなくなった、ということが時々あります。

今年の5月、会見地区の民家の庭に置かれた段ボール製の巣箱で、キセキレイが子育てをしています。お家の方は雛の巣立ちを楽しみにしていましたが、ある日突然、親鳥が困惑した様子でカラになった巣の周りをうろろしていたそうです。お家の方によると、庭にはヘビがいたので、雛は襲われてしまったのかもしれない、ということでした。華やかな歌声を聴かせてくれる彼らが、厳しい生き残り競争の中にいることを痛感した出来事でした。

みなさんがお住まいの地区には、白・黒・黄のどのセキレイが見られますか？

自然観察指導員 桐原真希